

目次

平洲先生講釈聞書……………	吉田 澄夫……………	七
抄物にみえる擬声語・擬態語……………	國田百合子……………	三
——長恨歌并琵琶行抄の諸本を中心に——		
「ます」と「です」の統論……………	安田喜代門……………	查
近世語における促音添加の現象について……………	岸田 武夫……………	六
——主として意味との関連において——		
『傳法偈下語』をめぐる……………	金田 弘……………	二三
医家の抄物（一斑）……………	柳田 征司……………	二五
近世の「をば」について……………	信太 知子……………	二八
——武士ことばと文語との関連——		

徳川期における方言文献の二系統とその諸相……………	白木 進……………	一六
『(俗)無名抄』『世話字尽』の語彙……………	桜井 光昭……………	三七
ケンペルの日独語彙……………	吉町 義雄……………	三五
辻蘭室『蘭語八箋』の考察……………	杉本つとむ……………	三二
山東京伝の、口語文と文語文との関り……………	斯林不二彦……………	三〇
——文節相互の関係からする試論——		
抄物の動詞について……………	坂詰 力治……………	三三
——漢語サ変動詞を中心として——		
クリシタン宗教書におけるゾ終止文の性格と その文章史的系譜をめぐって〔一〕……………	小林 千草……………	三六
——会話文末・対話文末・引用文末などの場合——		
大田南畝の文字生活……………	矢野 準……………	三七
——『向岡閒話』のかなの用字法を中心に——		
『浮世風呂』の片仮名表記語……………	土屋 信一……………	四〇
助動詞攷(その一)……………	梅原 恭則……………	四七
——推量助動詞の構文的職能——		
「助動詞」と「補助動詞」……………	宮島 達夫……………	四九
「雪恥」「付 _二 驥尾」「井蛙」小考……………	中山 緑朗……………	四九
「普通」と「通俗」……………	進藤 咲子……………	四九
安原貞室『かたこと』の用語・符号……………	阿部 八郎……………	五九
版本狂言記におけるゴザル・オリヤル・オヂ ヤルとその否定表現形式……………	小林 賢次……………	五二
曾根崎心中の「い・ひ・ゐ」について……………	坂梨 隆三……………	五九
近世後期上方語における指定の「じゃ」……………	寺島 浩子……………	五九
近世の美意識語彙……………	大橋 紀子……………	六三
——粹・意気・通をめぐって——		
永井荷風の言語行動……………	南 不二男……………	七〇

—『断腸亭日乗』を資料として—

明治時代の漢語意識……………飛田 良文……………三三

幸若舞曲にある室町中期的特徴……………都竹通年雄……………三三

執筆者略歴……………三三

漢語の中心として……………三三

漢語の語彙……………三三

漢語の文法……………三三

漢語の語彙……………三三

漢語の文法……………三三

漢語の語彙……………三三

漢語の文法……………三三

漢語の語彙……………三三

漢語の文法……………三三

平洲先生講釈聞書

吉田澄夫

(一) 単に語調をととのえるものと見られるもの

かならずしも意味との関連はなく、単に語調の上で発音上の強調性が加わったものと見られるものは、まず、漢語についてその例を見ることが出来る。

- チャキン↓チャツキン(茶巾) 茶巾を ○ちやつきん(かたこと・四)
- ユコウ↓ユツコウ(柚柑) 柚柑を ○ゆつかうはわろし(かたこと・四)
- ズキン↓ズツキン(頭巾) 頭巾を ○ずつきん(かたこと・三)
- ケタイ↓ケツタイ(卦体・怪態) けつたい。「略」忌々しき也(浪花聞書)
- ザトウ↓ザツトウ(座頭) 座頭を ○ざつとう(かたこと・三) イヤコレ、そちらのお座頭どのも借の病か(浮世風呂)
- ・前上)
- ゴテイ↓ゴツテイ(御亭) 御亭さんけふハどこへ行なんした(三教色)
- チャセン↓チャツセン(茶筌) 茶筌を ○ちやつせん(かたこと・四)
- キソウ↓キツソウ(氣相) 父ごのまへで拙者めが一ぶん立る御かくごと。きつそふかへて見へければ(八百屋お七・上)

なお、中世語についても、次のような例を見ることが出来る。

- 茶器(運歩色葉集) 富貴(いろは字・運歩色葉集・黒本本節用集) 究(クツキウツワモノ) 竟(天正本節用集) 不免地獄苦トイヘリ(運歩色葉集) 疎却(運歩色葉集) 穢多(いろは字)

右の諸例について見るとき、漢語の複合語(もしくは接頭語をもつ語)において、前部要素(もしくは接頭語)か後部要素のどちらかが一音節であるばあいには、後部要素の前に促音の添加されることの多いことがうかがわれるのである。

このことは、次のような母音イ・ウの添加とも通ずるところがあるもののように思われる。

- ケシ↓ケイシ(家司) したしきけいしともはかりことにいそく事なけにてあるをみ給にも(源・賢木)
- ヒキ↓ヒイキ(鼯眉) 鼯眉(黒本本・天正本・易林本各節用集)
- シシユ↓シイシユ(旨趣) 旨趣(饅頭屋本・易林本各節用集)
- シカ↓シイカ(詩歌) 詩歌(天正本・易林本各節用集)
- シリ↓シイリ(旨理) 旨理(いろは字)
- シトク↓シイトク(至徳) 至徳(成實堂本論語抄)
- シハウ↓シイハウ(四方) 四方(同前)
- シジ↓シイジ(四時) 四時(同前)
- サカ↓サウカン(佐官) 大史読於保伊佐官(二十卷本和名抄・五・職名)
- ホイ↓ホウイ(布衣) 布衣 ホウイ ホイ(十卷本字類抄・二)
- ホコ↓ホウコ(布袴) 布袴ホウコ ホコ(同前)
- ニヨゴ↓ニヨウゴ(女御) 女御(黒本本・饅頭屋本各節用集)
- ニヨゴノシマ↓ニヨウゴノシマ(女護島) 女護嶋(伊京集、天正本・饅頭屋本各節用集)
- ニヨパウ↓ニヨウパウ(女房) 女房(伊京集、黒本本・天正本・易林本各節用集)
- フフ↓フウフ(夫婦) 夫婦(温故知新書・下、易林本節用集)
- フシ↓フウシ(夫子) 夫子(成實堂本論語抄)
- フキ↓フウキ(富貴) 富貴(同前)
- フボ↓フウボ(父母) 父母(同前)

近世語における促音添加の現象について